

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス(株)		
事業所名	グループホーム ともたちの家		
所在地	滝川市西町2丁目3-47		
自己評価作成日	令和4年11月19日	評価結果市町村受理日	令和5年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0177500204-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和4年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんでも話し合い相談し合え望む生活に近づけ、活気ある暮らしができるよう支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市のほぼ中心部にあり、周辺には公園や三世交代センター、コンビニや病院等があります。平屋建て2ユニットの事業所で、ゆったりとした住空間は明るく清潔に整えられています。地域とは長年親交を深め、運営推進会議には地域関係者複数名の協力を得ています。コロナ禍以前は地域の行事に参加し、毎週百歳体操で住民の方々が来訪するなど、日常的にふれあう機会がありました。自粛中の現在は職員が散歩や外気浴、屋内レク活動を工夫しています。節分は職員が鬼に扮して無病息災を願い、日常では歌詞カードを揃えて皆でカラオケ、家事仕事や編み物、折り紙など得意事ができるよう、自立を支えています。食事面ではリクエストに応じて日曜の朝食は好きなパンを揃え、時にはラーメン祭りと呼称移動ラーメン店を呼び、好みの味を楽しめるようにしています。職員は利用者一人ひとりに向き合い、意向や希望を丁寧に聞き取っています。介護計画は利用者主体に軸足を置き、どのように実現できるか満足感につながるかを検討し、具体的な計画の基、その実践に取り組んでいます。コロナ禍であっても心豊かに過ごして欲しいと、明るく利用者18名の暮らしを支援しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	1 ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	1 ほぼ全ての家族と	
		2 利用者の2/3くらい	○			2 家族の2/3くらい	○
		3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい	
		4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	1 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	1 ほぼ毎日のように	
		2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度	
		3 たまにある				3 たまに	○
		4 ほとんどない	○			4 ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1 ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1 大いに増えている	
		2 利用者の2/3くらい				2 少しずつ増えている	
		3 利用者の1/3くらい	○			3 あまり増えていない	○
		4 ほとんどいない				4 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	1 ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	1 ほぼ全ての職員が	
		2 利用者の2/3くらい	○			2 職員の2/3くらい	○
		3 利用者の1/3くらい				3 職員の1/3くらい	
		4 ほとんどいない				4 ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1 ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が	
		2 利用者の2/3くらい				2 利用者の2/3くらい	○
		3 利用者の1/3くらい				3 利用者の1/3くらい	
		4 ほとんどいない	○			4 ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	1 ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が	
		2 利用者の2/3くらい	○			2 家族等の2/3くらい	○
		3 利用者の1/3くらい				3 家族等の1/3くらい	
		4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1 ほぼ全ての利用者が					
		2 利用者の2/3くらい	○				
		3 利用者の1/3くらい					
		4 ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は休憩室や事務所に貼ってあり、朝礼の時には読み上げ、実践につなげていくように努めている。	地域密着型事業所の姿勢を示した理念は、事業所の要所に掲示し、パンフレットへ明記しています。理念には5項目を掲げ、毎朝の唱和や会議等で、理念の共有とその実践を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「百歳体操」を通じて、地域の方々と体操を楽しみ、時には茶話会を行い交流している(現在は休止中)	感染症防止のため、地域交流は自粛していますが、近隣とはお互い様の精神で関わり、除雪の手伝いを得たり、何かあれば手助けをしています。定期的に届けられるボランティア団体の書画は廊下に掲示し、利用者の生活の潤いに役立っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は交流が難しい状況(コロナ)になっており、地域に向け何ができるのか考えて活かせたら良い		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が推進会議に参加し、会議でのことを事業所にて報告、サービス向上に生かせるよう話あう。	現在は書面報告として議事録を作成しています。内容は活動状況を中心に、事故等は検証報告として原因とその対策を記しています。推進委員として行政や地域関係者、同業事業所、家族等の協力を得ており、議事録に意見用紙を添えて配布し、意見等の吸い上げに努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や包括支援センター等、必要時連絡や相談等協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者の交代に伴う提出物や諸種報告、不明点は速やかに相談し、助言等を得ています。新型コロナウイルス感染症の対応をはじめ、介護認定更新や生活保護関連でも情報を共有し、協働関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。 拘束が必要と思われる時には、しっかり話し合いをしていくと思うが、現在は拘束が必要とされる方はいない。	身体拘束適正化の指針を作成し、職員は拘束に係る内容を理解しています。3ロックについては毎月チェック表を基に確認し、運営推進会議で拘束のないケアの実践を報告しています。玄関は防犯上、夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加等で、虐待防止の学習をしている(コロナ禍で研修は休止)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方はいないが、その都度活用出来るよう支援を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、十分な説明と理解をして頂けるよう話し合い、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で現在は行われていないが、利用者・家族を交えての運営委員会を行っており、意見要望を反映させている。	面会の場所や時間、人数等に制限を設けていますが、家族には受診や必要品の持参の際、また、電話等で利用者の様子を伝えています。要望等は検討して対応する方針です。毎月発行の写真掲載の便りは、さらに分かりやすく情報発信ができるよう検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い、利用者・職員の意見を聞く機会を設けている。	職員は、会議の場で運営やケアに対する意見や提案を述べています。隔月開催の全体会議には運営者も出席し、利用者や職員の動向を把握しています。コロナ禍により外部研修の参加は難しい状況ですが、外部講師による研修会を設定し、介護方法の再確認の機会になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在人員不足ではあるが、休み等の希望はシフトに反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修は受けられないが、ホームで作業療法士を招き講習会等アドバイスを心得、一人ひとりトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今、コロナの最中で交流する事は出来ない		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、不安であることを理解し本人の要望を聞き、コミュニケーションを取りながら、良い関係づくりに努めています。		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時には日々の様子を伝え、家族の要望・困っている事・不安などにも耳を傾けるようにし、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が安心できるよう、要望を取り入れたプラン作り・サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活の中に、「お邪魔させていただいている」という気持ちで、その気持ちを忘れない様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が安心していただけるよう、ご家族と利用者様の橋渡しができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は面会制限等で思うように会うことは出来ないが、窓越しや電話で関係が続けられるよう努めている。	制限はありますが、家族や親族、友人等の面会を支援し、電話や手紙等を取り次いでいます。馴染みとなってきた移動美容室を受け入れています。日常の会話では利用者の昔話に耳を傾け、大切な人や場所との記憶の想起を助けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や歌唱に声掛けし、皆で楽しんで頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であれば、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いに耳を傾けるように努め、ご本人の意向に添えるよう努力している。	殆どの利用者は自分の思いを表出でき、職員は食べたいものや好きな事を聞き取り、また、メニューや実物を提示し、視覚で選択しやすく工夫をしています。希望の過ごし方は家族とも相談し、実現困難な場合は代替案を検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴等、いつでも把握出来るようにファイルにまとめ、皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、日々の記録、ケアプラン、サービス内容に基づき、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、意見を出し合い現状に即した介護計画を作成するように努めている。	介護計画の見直しは、日々のモニタリング結果と職員から提出のアセスメントを基に、計画作成担当者が課題を評価しています。医療面の視点も加え、カンファレンスを通して本人や家族の意向を主に、現状に即した計画と具体的支援方法を立案しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に目を通し、しっかり情報を把握・理解するよう努め、実践に生かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあれば、出来る限りのサービスに取り組み、希望に添えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生きているうえで、豊かな暮らしをしていただきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、Dfに日々の様子や健康状態の変化等をメモに記入し伝え、適切な治療等が受けられるよう努めている。	受診先は、本人、家族の希望のかかりつけ医を継続しています。訪問看護師の週1回の健康管理と24時間連携体制を整え、気になる症状は都度相談しています。受診は家族同行を基本とし、個別ノートで状況や受診結果を共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきは他のスタッフとも共有し、訪問看護師に報告・相談・指示をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の生活が、困難にならないよう医療関係者と相談し、良い状態でホームに迎えられよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期の考え方など、徐々に信頼関係がきづけてから、聞き出すようにしている。	重度化、看取りの支援については、パンフレットに明記し、契約時に説明して同意を得ています。状態変化を見据えながら、立位が保てない状況など重度化傾向を踏まえ、本人や家族、医療関係者と話し合い、希望の移転先の相談に乗っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受け備えてはいるが、マニュアルのように実践で上手くはいかない事が多い。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所・方法など現在は確認しあえてないので、数か月に一回確認し合う必要がある。	今年度は、6月に消防設備業者の立会いにより、日中想定、利用者参加の避難訓練を実施し、12月には夜間想定訓練を予定しています。水や食料など各種備蓄品、停電や防寒上の必需品等を準備しています。	不測の災害に備え、非常時に迅速に対応できるよう、火災発生のほか、地震や水害等自然災害についても、定期的に避難方法や避難場所などを全職員で確認、共有することを期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の個性や習慣などに寄り添い、言葉づかいに注意している。 気持ちに余裕をもって接していけるよう職員全員がなれると良い。	理念の一節に利用者の尊厳重視の姿勢が謳ってあり、職員は明るく配慮ある接遇で利用者に接しています。気になる対応などは職員間で注意し合える関係です。個人記録等の保管等も適切に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解力の差も各個人で違うため、方法を工夫し個人の力に働きかけられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員が少なく、利用者のペースには中々合わせられない、例えば、利用者がお風呂に入りたくないと話せば、中止することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をされる方やスカートしか履かない利用者には、化粧の準備をして差し上げ、スカートを履く方には寒くならない様気配りをし、その他の方には清潔を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・お盆拭きなど出来る方への支援はしているが、一緒に準備や片付けが出来る人はいない。	外食業者から栄養管理されたメニューと食材を取り入れ、嗜好に応じて代替料理も提供しています。利用者とともにできる事を一緒に行いながら、季節の行事食や卓上でのおやつ作り、時には移動ラーメン店に来てもらい、好きな味を注文し楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量が確保できるように調整したり、声掛けをするなどして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けと見守りで口腔ケアが行えるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗をしないよう付き添う他、時間をみて声掛け誘導など支援を行っているが、認知症の進行もありオムツ使用は減っていない。	排泄支援は羞恥心に配慮し、さりげない声掛けや誘導、必要な確認をし、個々のできないことの介助で全員がトイレで排泄しています。個々のパターン把握することにより、失敗の軽減につながり、衛生用品の使用枚数を減らしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料や繊維質の多い食物をとって頂いたり、運動が出来ない利用者には、腹部マッサージするなど予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的に日にちや時間帯は決まってしまうが、本人が入浴を楽しめるように考えながら支援している。	週2回の入浴を目安に、希望や受診前等を考慮し、見守りながら洗身を手助けしています。拒否の場合も無理強いせず、同性介助も対応可能です。保清と会話を楽しんだ入浴後は、好みの保湿剤を用意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも自室で休息して頂いたり、夜間も光や音などに気を使い安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時には特に注意し、皆で情報共有し服薬後の変化などに注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が好きな方には編み物、お習字が上手な方には毛筆で字を書いていただく等、気分転換できるよう声かけしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の今、受診以外の外出は制限している。	コロナ禍により外出制限が続いており、家族が同行する病院受診が定期的な外出になっています。職員配置上、頻回の戸外活動は難しい状況ですが、室内に外気を取り入れ、散歩時に近隣施設の花壇を楽しんだり、少人数で車窓から菜の花見物をすることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ち使われる方には、自動販売機での飲料購入の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はいらっしゃらないが、「電話をしたい」とご希望があれば電話をしてさしあげることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、音・光・温度など不快にならないよう配慮し、利用者のレク作品で季節感を取り入れて居心地よく過ごせるように工夫している。	リビングは明るく、適切な温・湿度や換気に留意し、利用者にもモップかけをお願いしながら、清潔保持に努めています。リビングの他に廊下にもソファを配置し、利用者作成の貼り絵の掲示や、本や歌詞カードも手に取れる場所に置き、自由に居心地よく過ごせる環境を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれるよう椅子を配置している。気の合う利用者さんがいる人も少なく、居間の自席で会話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族が本人の使いやすいように配置してくれている。ホームとしては、危険なく過ごして頂けるよう変更して頂く部分もある。	居室にはクローゼットが備えられ、自宅からタンスや鏡台、小型家電、縫いぐるみなどを持参しています。編み物道具や折り紙など趣味の材料を揃え、好きな事ができるよう居室を整えています。状況により、本人や家族と相談し、動線確保のため、家具の配置換えをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用しての歩行やトイレやお風呂の表示をすることで、場所がわかり自立した生活が送られている。		